

学校管理職と中堅教師のための教育総合誌

# 総合教育技術

GENERAL MAGAZINE FOR TEACHERS SINCE 1946

07  
JULY  
2015

学校管理職と中堅教師のための教育総合誌  
総合教育技術

07  
2015

2大総力大特集・「正しく叱る」「正しくほめる」技術 子どもの貧困に向き合う学校経営・学級経営

小学館

見どころいっぱい

# 福島県。

豊かな自然と長い歴史をもつ福島県には、魅力的な名所がたくさんあります。

千円札に描かれている世界的医学者、野口英世の生涯を紹介する「野口英世記念館」や、三〇軒以上の茅葺屋根の民家が並び、江戸時代の宿場町の雰囲気を感じさせる「大内宿」、そして、名君松平定信等が居城とした国の史跡「白河小峰城」等、見どころが点在です。

福島県の旅なら、大人から子どもまで一生の記憶に残る感動が待っているに違いありません。ぜひ、この夏の旅行はふくしまへ。



ふくしまからはじめよう。



① 鶴ヶ城(会津若松市) 会津の象徴であり、戊辰戦争の激戦地。今年、天守閣再建50周年を迎えた。



② 野口英世記念館(猪苗代町) 野口博士と科学の魅力に触れる。



③ 喜多方ラーメン(喜多方市) 約120軒がひしめく本場の味。



④ 芦ノ牧温泉(会津若松市) 渓谷美と湯量豊富な天然温泉。



⑤ 大内宿(下郷町) 江戸時代の宿場町の町並みを散策。



⑥ 城のへつり(下郷町) 百万年の歳月が生んだ景観。



⑦ 白河小峰城(白河市) 日本100名城に選定された優美な姿。

教育旅行は、多彩な魅力がそろった福島県へ。

福島県教育旅行について役立つ情報が満載!  
ふくしま旅支度 検索 (福島県教育旅行ホームページ内) 福島県教育旅行ホームページ▶ <http://www.tif.ne.jp/kyoiku/>  
福島県観光交流局観光交流課 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 TEL:024-521-7398 FAX:024-521-7888

## 子どもの貧困に向き合う学校経営・学級経営

いまや6人に1人!  
徹底分析 子どもの貧困の現状と、いま学校にできること  
菊池省三先生登場! 学級経営 学校経営 地域・関係機関連携  
3つの視点から考える子どもの貧困対策

## 「正しく叱る」「正しくほめる」技術

赤坂真二先生が成功事例とともに解説  
コミュニケーションスキルが身につく校内研修術  
重要ポイントを3人のプロがアドバイス  
連続提言 若手教師の「叱る」「ほめる」力をどう育てるか  
総力大特集 02 生活習慣の劣悪化、低学力、貧困の連鎖  
総力大特集 01 若手教師に身につけさせたい

完全保存版 (112ページ) 別冊 特別付録  
吉田松陰から有田和正まで  
声に出して読みたい  
「教育者の名言」  
50  
小学館 別冊 特別付録

情報パック拡大版  
夏の研究会・研修会  
完全ガイド



<http://fmete.sgkm.jp>

R.mascis

雑誌 03001-7 特別定価1,080円  
本体1,000円

©Shogakukan 2015 Printed in Japan



4910030010756

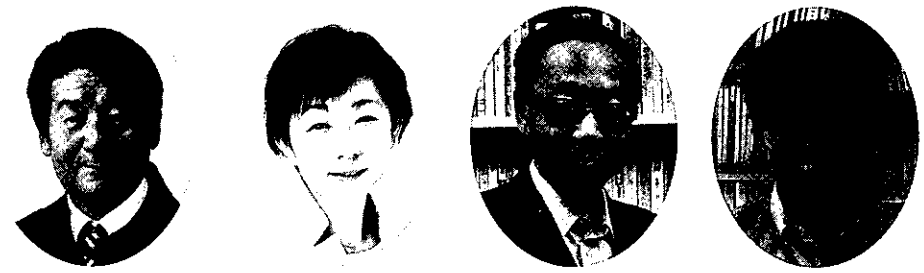
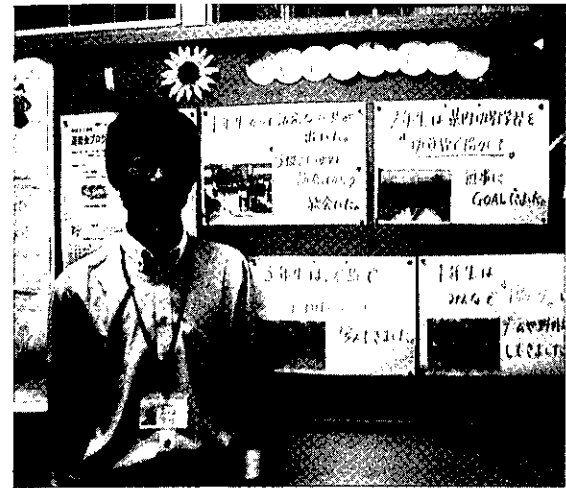
01000



若手教師に身につけさせたい

「叱る」「ほめる」技術

子どもたちと適切なコミュニケーションをとれない教師が増えているという声をよく聞く。適切なコミュニケーションがとれなければ子どもたちとの信頼関係も生まれず、そこから学校教育上のさまざまな問題が生じることとなる。「叱る」「ほめる」を含めた言葉かけの技術は、どうすれば身につけることができるのか？ 管理職はどのような対策を立てる必要があるのか？ 4人のプロの提言と実践例レポートを通して多角的に考えてみたい。



**PART 1**  
赤坂真二先生が成功事例とともに解説  
コミュニケーションスキルが  
身につく校内研修術 ..... 10

**PART 2**  
重要ポイントを3人のプロがアドバイス  
連続提言 若手教師の  
「叱る」「ほめる」力を  
どう育てるか ..... 20



提言③ 中学生のほめ方・叱り方

ほめるのも叱るのも基本は同じ  
「相手を承認する」適切な言葉かけを

愛知県刈谷市立朝日中学校教諭 神谷和宏



神谷和宏 (かみや・かずひろ)  
愛知教育大学卒業。愛知県公立中学校教諭。コーチングに基づく教育法を実践し、教育アドバイザーとしても活躍する。「教師のほめ方叱り方コーチング」(学陽書房) など著書多数。  
http://www.katch.ne.jp/~k-kami/

子どもを叱ることができない、子どもをうまくほめられないという教員は、どのようにそれを克服していけばよいのか。コーチングの手法を用いた教育法を実践する神谷和宏氏は、ほめる場合も叱る場合も、子どもの人格を承認しながら言葉かけることが重要だと語る。その具体的な方法を聞いた。

子どもと信頼関係を築くことがほめること叱ることの第一歩

子どもを「叱る」というのは、子どもとの間に人間関係がしっかりと築かれていないと、うまくいきません。人間関係ができていない状態で、頭ごなしに子どもを叱ってしまうと、叱ったことによって子どもが先生に反発してしまい、指導がうまくいき

なくなってしまうことがあります。若い先生は、「叱って失敗した」という経験が枷になり、同じ失敗を恐れて、叱らねばならない状況で叱れないという状態に陥ってしまいがちです。

しかし、「叱ると子どもに嫌われる」というのは、正しくありません。学校の中には、とても怖い先生なのになぜか人気がある先生がいます。「怖いけど、あの先生のクラスになりたい」という子が、よく見られます。子どもは、たとえ叱られても、しっかりとした信頼関係があれば、その人を嫌になつたりしないのです。

日本ではかつて、ひたすら厳しく、「あれをやれ」「これをやれ」と指導することで教育が成り立っていた時代が、非常に長くありました。しかし現在、社会環境は変

化し、言われたことをやるのではなく、一人ひとりが何をすべきか考えて行動しなくてはならない時代となっています。その中で求められる教育は、子どもに言うことを聞かせることよりも、子どものやる気を引き出す教育です。

子どもでも大人でも、人は、期待されていると感じるときにやる気を発揮します。しかし、これには重要な前提があります。それは、期待する側と期待される側との間に、しっかりとした人間関係が成立しているということ。人間関係ができていない状態で期待をかけても、「うざったいな」と思われてしまいます。この状態では、叱っても効果がありません。叱るにしろ、ほめるにしろ、まずコミュニケーションが非常に重要なのです。

「アイメッセージ」を使って相手を承認する言葉かけ

ほめると叱るといふのは、車で言うところのアクセルとブレーキのようなものです。ほめると子どもはやる気になり、どんどん前に進んでいきます。けれど、アクセルばかり踏んでいたら、どこかにつかつかつてしまいかもしれません。そうしたときに、ブレーキをかけて制御してあげるのが、叱ることの役割なのです。

私は、叱るもほめるも、実は同じことなのだと考えています。一言で言えば、どちらも相手を「承認すること」なのです。「人に認められたい」というのは、誰もが感じる欲求です。

では、相手を承認しながら叱る、あるいはほめるというのは、どうすればできるのでしょうか。そのための方法として、私は「アイメッセージ」という手法をおすすめします。アイメッセージの「アイ」とは「私」の「I」です。アイメッセージを使った叱り方の例を紹介しましょう。

①事実を確認する。  
「宿題を忘れてきたんだね」

②その影響を確認する。

「宿題を忘れてきたことで、隣の子はきみのことを、どう思うかな? 宿題ができないダメな子だと思いかもしれない。勉強も遅れてしまうよね」

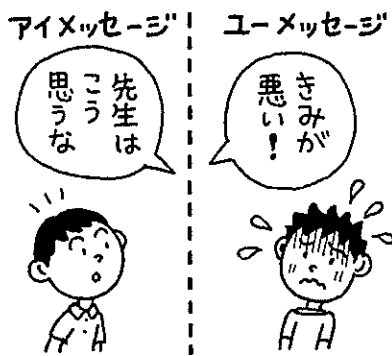
③自分の感情を伝える。

「先生はきみならこの宿題ができると思う。それなのに忘れてきてしまったのは、少し悲しいな」

④次はどうするか聞く。

「どうすれば次は忘れないかな?」

このようにアイメッセージで叱ると、叱られたことが、単に辛く苦しいものではなくなつてきます。この手法は、ほめるとき



アイメッセージを伝える際は、「事実」「影響」「感情」をセットで伝えることが大切だ。

子どものタイプに合わせてほめ方・叱り方を考える

も使うことができます。例えば、生徒が机をとめてきれいに拭いてくれたとき。

①「机がピカピカになってるよ、きみが拭いてくれたんだね。すごいなあ」

②「こんなに机がきれいになってたら、みんなやる気が出ちゃうね」

③「先生はクラスにきみがいてくれてとてもうれしいよ。ありがとう」

④「明日はどうかな?」

これを繰り返していくことで、子どものやる気はどんどん上がっていきます。

心理学の分野で、人間の性格を9つに分類した「エニアグラム」という考え方があります。話題になった「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」(KADOKAWA)の文庫版では、巻末にビリギャルを指導した坪田信貴先生の指導法が掲載されていますが、ここでもエニアグラムに基づいて生徒に対応する指導法が紹介されています。

では、子どものタイプを意識したほめ方・叱り方とは、どんなものでしょう。例えば、

エニアグラムにおける9種類の性格分類

タイプ①	完全でありたい人/改革する人 理想が高く、自分や物事が完全であることを求め、常に完璧をめざす。
タイプ②	人の助けになりたい人/人を助ける人 他人の世話をし、人と人との温かい心のつながりを求め、人を愛そうとする。
タイプ③	成功を追い求める人/達成する人 ステータスを求め、社会的に成功した人生を送ろうとし、目標を達成しようとする。
タイプ④	特別な存在であろうとする人/個性的な人 自分の感情を味わい、個性的で特別な存在であろうとし、独特の自己表現をする。
タイプ⑤	知識を得て観察する人/調べる人 知識や情報を求め、自分の周りの世界がどうなっているかを知ろうとする。
タイプ⑥	安全を求め慎重に行動する人/忠実な人 安全を求め、自分を守ってくれるものに忠実であろうとする。
タイプ⑦	楽しさを求め計画する人/熱中する人 常に物事の明るい面を見ようとし、人生に楽しさと満足を求める。
タイプ⑧	強さを求め自己主張する人/挑戦する人 強さを誇り、チャレンジ精神旺盛で、自分で自分の世界をコントロールしようとする。
タイプ⑨	調和と平和を願う人/平和をもたらす人 争いを避け、内面の平和と安定を求め、周囲に癒やしと平安をもたらす。

**タイプ③**  
成功を追い求める子ども  
失敗こそ、成長のチャンス

このタイプの子どもは、クラスやクラブの活動にも積極的に参加し、多くの友だちをもち、理想的な子どもです。外見的にも実績の点でも周囲に認められようという思いが強く、そのための努力を惜しみません。その努力の成果を力にし、さらに高い成果をめざす意欲と、行動が生まれます。しかし逆に、実績をあげなければ愛されないという強迫観念があります。効率性や成功

をめざして努力をするのは、親や先生の愛を得るための切実な行爲です。ですから、うまくいきそうもないテーマには最初から目をそらしたり、失敗しそうになると、他人に責任をなすりつけたり、無理な言い訳をすることもあります。失敗は許しがたいもので、失敗を経験すると自分の存在価値が失われたような絶望感を感じるわけです。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例  
「きみには才能がある」「失敗してもいいじゃないか」と成果だけで人間の価値が決まるわけではないことを伝えましょう。

**タイプ④**  
特別であろうとする子ども  
常識を押しつけない、疑問形で

このタイプの子どもは、素直で、人の感情を害することを好まない優しさと温かさを持ちます。またおしゃべりやエレガントさを好み、理想を求めて生きようとしています。感受性が鋭く、他人の気持ちに対してもとても敏感で、他人のもつ個性や雰囲気も素晴らしにも素早く気づきます。また、他人が関心を示さないものにも、特別な意味を見出し、重要でもない体験を、特別なものとして記憶している傾向があります。

しかし、繊細で敏感なので、自分の価値が評価されない場合の憤慨や強情さ、辛辣さは、他のタイプとは比較にならないほど激しくなります。ですから、子どもの「理解されたい」という思いに応えることが必要です。そして、常識やまわりを押しつけてはいけません。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例  
「このことはどう思う?」「周りの人はどういう考えをするかな?」など、子どもに気づかせるというスタンスに立ち、疑問形でメッセージを送りましょう。

**タイプ①**  
完全でありたい子ども  
苛立ちを冷静に見守る

このタイプの子どもは、親や教師の期待に全力で応えようとし、責任感や正しさを重視します。誰に対しても素直で、周囲の指摘が正しいと感じれば、それに従おうとしますし、自分の過ちを認めれば、辛抱強く欠点を克服しようとしています。のんびりとリラックスすることは少なく、体を動かして

優しくて人に貢献する子には、「友だちに優しく教えていたね、ありがとう」とほめる。逆に叱るときは、「その子が大事だと思ふことを意識して、「きみはいつも人に優しいのに、それだと他の子が悲しむんじゃないかな?」と、アイメッセージと組み合わせつつ叱るとよいでしょう。

特に若手の先生は、まだ多くの子どもを観察した経験がないため、「こういう子にはこういう指導を」という感覚がまだ身につけていません。まずは子どものタイプをこの9つに分類してみても、どのように声をかけするかを考えていくと、自分なりの叱り方、ほめ方の指針を作っていくことができるでしょう。



ていることが好きなので、学校でさまざまな役目を引き受け、それをきちんとこなしていこうとします。

こうした姿勢は、いわゆる「よい子」の代表です。しかし、完璧主義の表れとして、察しが早く、賢い子に見られたいという意識が強く、知ったかぶりをしたり、早とちりをすることもあります。また他人から批判や非難をされたくないという思いから苛立つこともあります。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例  
「無理なくいいからね」「失敗なんかへっちゃら」などのメッセージを入れましょう。積極的に声をかけをするより、冷静に評価してあげることが大切です。

**タイプ②**  
人の助けになりたい子ども  
落ち込みのときこそ承認する

このタイプの子どもは、人の役に立ち、人の思いに順応することで関心を満たれようと努力します。教師に対しても従順で、喜んでもらうことに一生懸命ですから、他人に優しく愉快な子どもとして、かわいがられます。一方で、友だちが助けを必要としないと言われると落ち込み、「やっつけてあげたのに……」と感謝されないことに落ち込んだり、「拒絶された」「置き去りにされた」といった苛立ちをもちます。そして、他人の意に合わせたり、楽しませたりするので、相当のエネルギーを必要とし、しばしば疲労します。対人関係に疲労している深刻なサインと認識する必要があります。苛立ちや疲労感を見るときは、気分や言葉を変えたり、叱るとしても高圧的な言い方をすることは避けてください。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例  
「いつも友だちのことを考えているんですね」「静かに見守ってあげること、友だち思いかな」という承認のメッセージを伝えることが重要です。

**タイプ⑤** 知識を得て観察する子ども  
「言った通りだね」と受け入れる

このタイプの子どもは、賢く、知的好奇心が強く、授業でも適切な質問をよくし、成績も概して優秀です。他人に頼ることは少なく、何でも自分でやろうとし、過度の欲求を出すことはまれです。一人遊びが好きで、本を読んだり、趣味で長い時間を過ごしたりできます。彼らは普段、ポーカーフェイスで過ごすことが習慣になっていきます。そして、高圧的な人の前に出ると、無理強いされると感じ、逃げようとしません。また、人間関係のトラブルやプライバシーの侵害、自由の制限を恐れます。

このタイプの子どもと接するときの構えとしては、過干渉を控えることです。普段の言葉は少ないですが、その意見を適正に評価し、それを聞き入れることです。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例

「きみの言っていた通りだったね」「よく観察してるね」といった評価をしながら、その意見を貴重なものとして受け容れると、自分の意見の有用性に自信をもち、発言や行動の意欲が育ちます。

**タイプ⑧** 強さを求め自己主張する子ども  
強い怒りを、冷静に見守る

このタイプの子どもはエネルギーにあふれ、威厳をもって、精神的に行動します。すすんで役割を引き受け、相談をもちかけられれば、面倒見がよく、思慮深く、責任感もあり、信頼されます。ただし威勢のいい態度で、不満をためらわずに表現するため、ともすると周囲を怯えさせます。また、力への憧れから、周囲の人々を統制しようとし、思い通りにならないと怒りや責任転嫁的な姿勢を見せ、立場を悪くしてしまう傾向があります。さらに、自分を押しさえつけようとする存在には敵対します。また、無意味と判断したルールは、ためらわずに破り、型にはまらない自分に喜びを感じます。ケンカにもち込むこともあります。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例

ほめる場合は何を伝えても問題はありませんが、叱らなければならぬときは、冷静になるまで時間をかけ見守ることが大切です。「他の人から攻撃されることはない」「あなたのままでいいんだよ」というメッセージが伝われば優しさも生まれます。

**タイプ⑥** 安全を求め行動する子ども  
ほめてほめて、自信をもたせる

このタイプの子どもは、まじめで人なつこく人好きがするタイプと、皮肉が好きで疑り深く片意地なタイプがあり、その両面をもっている子もいます。両タイプは、まったく異なるキャラクターに見えますが、どちらも内面に不安や恐怖を抱えやすく、心配性から発生するものです。恐怖や不安を解消するためには、信頼できる友人をもつことがこのほかに重要です。また心配性ですので、自信をもつことも苦手です。良い記憶より悪い記憶を思い出しやすく、自己評価もマイナスのものになりやすいのです。ですから、ほめて自信をもたせましょう。このタイプに関しては、ほめて、ほめすぎるといふことはありません。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例

「きみは最高だよ」「そんなやり方もあるんだなあ」など短いフレーズでも構わないので、ほめ言葉を増やしましょう。逆に「もつとはつきり言いなさい」などの命令や忠告を繰り返すと、無視や不快感を露わにし、かたくなになります。

**タイプ⑨** 調和と平和を願う子ども  
大切な存在として扱う

このタイプの子どもは、いつでも穏やかで、めったに怒りません。周囲が議論をしていても、興味を示さず、争いごとからは目をそらそうとします。そして、自分は注目を集めたり、重要な存在ではないと感じています。おほかたでよい子であるために、周囲に見過ごされがちです。他のタイプの子なら自己主張をする場面でも、何も主張せず満足そうにしているために、先生も注意を払う必然性を感じないのです。しかしこの結果、「誰も自分に目をかけてくれない」「いなくてもよい」と考え、それはしかたのないことだという思いに至り、自己イメージがもてなかつたり、夢を感じにくくなる傾向があります。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例

重要なのは「軽んじないこと」「無視しないこと」「大切な存在として扱う」ことです。「あなたは大切な人だから」「きみがいてくれてうれしいよ」などのメッセージを、ほめ言葉・叱り言葉の中に、織り交ぜて伝えましょう。

**タイプ⑦** 楽しさを求め計画する子ども  
結果への期待をかける

このタイプの子どもは、明るく、ユーモアがあり、行動的です。一人でいるよりも、多くの友人と遊ぶことが好きで、グループのムードメーカー的な存在です。さまざまな思いつきやアイデアを実行に移し、情熱を傾け、周囲を活気のあるものにし、常に前向きで、くよくよと思悩むことは少ないという長所があります。また自立心があり、何でも一人で大人と同じようにやろうとし、早く大人になりたいという思いを強く抱いています。

このタイプの子どもには、もっている才能、能力に注目して、それを伸ばす方向を重視してください。そして何かに取り組み始めたとき、そのアイデアや意欲より、結果への期待をかけてください。

●ほめるとき叱るとき言葉かけ例

「どんなものができてるのかな？ 楽しんだよ」「これができたら、みんな、びつくりするね」のように声をかけます。「ちゃんと最後までやりなさい！」といった高圧的な伝え方はあまり有効ではありません。

それぞれの子どもに合った  
承認の言葉かけ

子どものタイプに合わせて言葉かけをするには、まずその子のことをよく見なくてはなりません。「先生は自分を理解してくれている」と感じられることが、信頼関係を生むのです。子どもとの信頼関係を築くことで、ほめることの効果、叱ることの効果も増していきます。

大事なのは、ほめるときも叱るときも、相手を認め、尊重すること。ほめるのも叱るのも、相手を大切に思う気持ちから発するのだということを、しっかりと意識して、言葉をかけていきましょう。

